

「東京ニセコ会との自治創生に関する意見交換会」議事概要

- 1 日 時 平成27年12月13日(日) 16:00~17:15
- 2 場 所 住吉地区集会所(東京都江東区)
- 3 テーマ ニセコ町の自治創生の取組について
- 4 出席者 (ニセコ町役場) 金井自治創生室長
(東京ニセコ会) 穂山貞夫会長ほか 計10名
- 5 意見交換 下記のとおり

【全般】

- これから北海道は、北海道新幹線の札幌延伸と札幌オリンピックという、大きなイベントを迎えることになるであろう。これらを見据えたまちづくりを進めるべき。
- 産業別就業人口構成比率からも明らかだが、第一次産業(農業など)の町から第三次産業(観光業などのサービス業)の町に変わった。グローバルリゾートとして発展していくのが、これからのニセコ町の姿だろう。

【東京ニセコ会との連携】

- 東京ニセコ会のネットワークで協力できることがあれば協力する。改めて役員会・総会の承認を受け、会員一丸となってサポートしていきたい。
- 移住・定住PRに有志が協力することは可能。ただし、その際には、事前の研修が必要。
- 都市圏に本気で働きかけるなら、東京事務所の設置(特産品の販売、観光PR、移住・定住説明会など)、東京ニセコ会の協力者への報酬なども準備して取り組むことも考えられる。
- 東京ニセコ会の役員は、町から観光大使の委嘱を受けているが、希望者は移住・定住促進委員としても委嘱を受け、一体的に活動することも考えられる。
- 大学卒業後のニセコ町出身者に対するケアが行き届いていない。東京ニセコ会でも、20代~30代の東京圏移住者として把握できているのは、数名のみ(潜在的にはもっと居住しているかも知れない)。

【基本目標 1】（多様なライフスタイルやニセコの地域性に対応した労働環境の整備）

（創業・企業誘致）

- 東京からニセコ町への移住はあまり見かけない。首都圏からの移住について娘に聞いたところ「移住したいものがない」との意見。都会で生まれ育った人の目から見たとき、収入が得られる仕事があるかが重要。町自身がそういう努力をしているのか。
- 都会と地方で、ハローワークが取り扱う仕事の特徴が異なるはず。都会は正社員を多く取り扱っているが、地方では必ずしもそうではない。季節労働が多いならば、季節労働向けのハローワークをより充実させてはどうか。ハローワークに限らず、町内で民営ハローワークを立ち上げるのも一案。千葉市には市営の仕事相談の施設がいくつかある。
- 労働意欲が旺盛な高齢者が多くなっている。
- 企業誘致は、ICT を活用した地方でもできる企業に重点化すべき。今、鳥取県への移住がブームなのは、これがうまく機能しているから。
- 地方は都市と比べてハンデがあるが、その差がないのが ICT。コールセンターも、アウトソーシングしている自治体や企業も多く、地方で取り組めるポテンシャルがある。
- ニセコ町でトレーダーをやっている知人がいる。
- ニセコ町の基幹産業は農業と観光で、いずれも季節雇用がある。農家の後継者不足が課題。遊休耕作地が残っていれば、町が借り上げ、就農希望者に農業体験しながら農業技術を身につける場にしてはどうか。
- じゃがいもやゆめぴりかが有名なのだから、それを加工する企業を誘致してはどうか。
- 道の駅ビュープラザにレストランがない。じゃがいもやゆめぴりかを前面に出したレストランを開いてはどうか。レストランならば、季節雇用ではなく通年雇用の創出につながる。
- 起業の成功例は、ニセコ町内にすでに蓄積されているはず。移住者が成功している例も増えてきた。成功者へのヒアリングを行えば、何かヒントが得られるであろう。
- 若い人の働く場所について、もし何か規制があれば、規制緩和する方向で考えるべき。

【基本目標 2】（ニセコとの交流ネットワークの拡大と受入環境の整備）

（知名度）

- ニセコ町には、ニセコ町出身者が思うほど知名度がないように思う。北海道産直フェアのとき、他の自治体のふるさと会からは「ニセコ町は有名」と言われるが、名前だけ聞いたことがあるなど、知っているのは上っ面だけという人が多い感触がある。

(観光)

- 日本百名山にも選定されている羊蹄山は、ニセコ町にゆかりのある人が誇れる山。近年、高齢者を中心に、登山ブームが起きている。要諦山麓町村と連携しながら、羊蹄山の魅力を宣伝・発信すべき。
- 羊蹄山の登山コースに、ニセココースを作ってはどうか。羊蹄山境区分の他4町村（倶知安町、京極町、喜茂別町、真狩村）からの登山コースはあるのに、なぜかニセコ町だけない。
- 北海道新幹線の函館開通・札幌延伸を踏まえると、強化すべきなのは道南の観光。観光協会や旅行会社ともしっかり連携して進めるべき。
- 鹿児島実業高校が、修学旅行でスキーをするため、ニセコ町に来たと聞いた。道外からの修学旅行に何かチャンスはあるか。

(移住・定住 PR)

- 東京圏の移住・定住関係機関は、NPO 法人ふるさと回帰支援センター以外にもある。
- 東京圏でも、地方自治体独自の移住説明会が多くみられるようになった。ニセコ町も考えてはどうか。

(移住・定住環境)

- ニセコ町の人口増加傾向は特殊。出産できる年代の人口流入があるのが強み。
- 定住にあたっては、買い物の利便性が重要。デマンドバスの予約が取りにくく苦情が多いと聞いている。タクシーの方が、融通が利きやすいため、生活にも根付きやすいのではないか。ニワトリとタマゴかも知れないが、タクシーの利用者が増えれば台数も増える。ワンメーター分を安くして、タクシーの利用者を増やしてはどうか。
- 移住者の固まりができれば、コンビニを拠点にするとよい。コンビニは品物だけではなく情報も集約されており、地域の拠点として機能していく。
- 都市圏より収入が少なくても、電気・ガス・水道などへの支出が少なく手元にお金が多く残ることが、地方の魅力の一つになりうる。地熱発電を導入すれば、電気代を安くすることにもつながる。地熱は、農家のビニールハウスや住居の暖房に活用することも考えられ、自然の恵みを町民がもっと享受すべき。

- 国定公園での地熱発電にあたっては、規制緩和も考えるべき。地方創生に適った緩和だと考えれば、時代に即した妥当性があるように思える。
- 東京圏に慣れた人がニセコ町に移住・定住する際にネックになるのは、雪かき。業者に頼めるにしても、お金がかかるので毎日はお願ひできない。
- 勤務先に子どもを預けるような取組も拡大すべき。コンサートやアーティスト訪問などのイベントが充実してきたようだが、それらを楽しむため、子どもを預けられる仕組みがあれば嬉しい。

【基本目標 3】（ニセコ町への誇りや愛着を持つ人材の育成）

（町立ニセコ高校）

- 北海道三笠高等学校は、パティシエの育成を掲げ、女子生徒の獲得に成功している。ニセコ高校は、農業と観光を掲げているが、何かにより特化できる余地はあるか。
- ニセコ町の料理や食生活を、ニセコ高校を介して発信することも考えられる。観光客にニセコ町の食文化をふるまうような取組があっても面白い。
- ニセコ高校は専門性に特化すべき。もし、ニセコ高校で新規分野を開拓するなら、介護ではないか。町内に温泉が多く、それらを活用した介護施設が考えられる。卒業後に介護福祉士の資格を取れるようにして、町が働き先もあてがうのはどうか。

（国際交流）

- 「冬のニセコは外国人ばかり」と捉えられるのが最近では定着している。外国人が入ること自体は賛成。外国人と共存することによるメリットを伸ばすべき。例えば、ニセコで起業すれば英語に触れるチャンスが増えるなど。
- テレビで、ニセコ町はインターナショナルスクールのおかげで移住者が増加したと聞き、違和感があった。インターナショナルスクール自体は、生徒数はさほど多くなかったのではないか。

（高等教育）

- ニセコ町はグローバルリゾート。スキースクールや外国語大学を設立することも考えられる。

【基本目標 4】（ニセコエリアのブランディングを生かした連携実績の蓄積）

（広域連携）

- 千歳空港からニセコまで J R だと 3 時間もかかる。ニセコ町へのアクセス向上が必要。バス整備がニセコ町単独で難しければ、周辺町村で費用を捻出することも考えられる。
- アクセスが不便な点については、千歳空港からニセコ町まで高速道路が繋がればなおよい。